

甲状腺外科草子 39

戦火を浴びた城：上田

杉野 圭三

日本全国、多くの城が築かれたが実戦を経験したものは少ない。上田城で真田一族は2回の合戦を行い、徳川軍を苦しめ、関ヶ原合戦に遅参し恥をかいた二代将軍秀忠から長年憎まれることとなった。



真田昌幸 (1547-1611), 信之 (1566-1658), 幸村 (1567-1615)

大河ドラマ「真田丸」は幸村を中心に描いたが、池波正太郎の「真田太平記」は信之の複雑な立場と苦勞を描いている。

上田を訪れる機会をようやく得ることができた。東京から新幹線で1時間前後、便利になったものである。



由緒正しい上田城も明治初年はボロボロの状態、昭和初期には遊郭として使用され、悲惨な経過を辿ってきた。



上田城 (明治初年) 同 (昭和19年)

現在の城に天守閣や本丸はないが、立派な城門と櫓が再建され、跡地には市立博物館と真田神社が建てられ、公園も整備され市民の憩いの広場となっている。



本丸跡地 櫓 真田神社

平成6年(1994)に再建された城門は太い材木を使用し、堅牢な作りで見事なものである。係員の説明では、日本には太い檜がなく、台湾檜を使用した約5億円の費用を要したとのことであった。



再建された城門 5億円の台湾檜を使用

上田駅から城までは近いようで遠く、あちこち散策(迷走?徘徊?)する途中で城の一部と思われる堀と門を見つけた。説明書きによると上田藩主の屋敷門であり、現在では県立上田高校の正門となっている。城主の屋敷内にある高校は極めて稀であり、歴史と伝統を受け継ぐ誇り高さ佇まいを示していた。



県立上田高校正門(藩主屋敷門) 学校周囲の堀

小諸から上田にかけて千曲川の流域には風光明媚な景色がひろがり、島崎藤村の「千曲川のスケッチ」、「千曲川旅情の歌」にも描かれ知名度が高い。



城から眺める上田市内は兵どもの喧騒を忘れさせる長閑な景色が広がっていた。

「城址や六文銭の夏の夢」、凡人査定?
(一甲状腺外科医の徒然なる随想)